

教科 【 保健体育 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・授業の最初にめあてや本日の授業の流れを提示し、生徒に見通しをもたせる。 ・一人一台端末を活用し、興味関心をもてる授業、課題解決的な学習、個人やグループで考えを深める授業を行う。具体的には、正しいフォームや動画で確認し、自身の動作と見比べたりすることで、より正しいフォームを意識し、改善や上達しやすい環境を整える。 ・「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行う。そのためにも、種目やそれに応じた役割などを丁寧に説明する。また、仲間と協力する場面やルールを工夫することで、それぞれが活躍したり楽しんだりできる環境を整える。 ・授業の終わりに、授業を通してわかったことやできたこと、改善点などについて100字程度書き、振り返りを行う。 ・保健分野では、一人一台端末を活用し、既習の単元からさらに深めたいテーマを選択し、自分で目標を立て、個・グループかを選択し、学習を行う。
視点2 読み解く力の育成	・保健分野では、「健康な生活と疾病の予防、身の発育・発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、社会生活と健康等」の保健の基礎的な内容について学び、個人生活の健康と安全を考え、実生活に生かせるようにする。 ・体育理論では、スポーツへの関わり方やスポーツがもたらす体と心への効果、社会におけるスポーツの役割などを学ばせ、生徒自身が生涯を通してスポーツとどのように関わっていくべきかを考えさせ、実行するように指導する。 ・体育分野では、体の動かし方や運動やスポーツの価値等の学びから、自分の健康や体力について考え、主体的に運動する力を付けるように指導する。
視点3 総合的な学習の時間との連携	保健分野（環境問題等）や体育理論（スポーツの多様性等）で学んだことを総合的な学習の時間（SDGs・環境等）に繋がられるようにする。具体的には、温暖化やごみ問題、異常気象が世界で頻発していることを理解させる中で、「物を大切に扱う。食べ物を大切にする。道具や生きものを大切にする。」ことの必要性を理解させる。また、自分のことだけでなく、他者、地域や世界・宇宙にまで目を向けられる態度や心を育む。